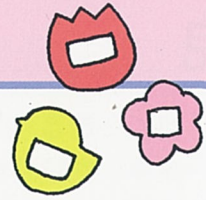


文京区版 幼児教育・保育カリキュラム ～ 3歳未満児～



子ども家庭部・教育推進部



基本方針

平成29年3月に保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改定・告示されたことを踏まえ、平成28年2月策定の3歳以上児を対象とした統一カリキュラム『文京区版幼児教育・保育カリキュラム』に3歳未満児を含めて改定することとする。

内容としては、保育所保育指針を基本とし0歳～2歳児まで（3歳未満児）の発達に合せたものとなっている。

ただし、3歳未満児については一人一人の子どもの発達状態に個人差があるため、生育歴、心身の発達、活動の実態等に即して、本カリキュラムを参考とした個別的な計画の作成が必要である。



基本的な考え方






文京区は歴史と文化と緑に生まれ、文学・教育が息づく“文の京”として、歴史を今に未来につなげ、地域が一体となり子どもを育む支援を実施している。一人一人が自分らしく輝くことで“文の京”の魅力さをさらに高め、すべての区民が“住んでよかった”“これからも住み続けたい”と実感するまちづくりを目指している。さらに、明治9年に日本で初めて開園し、倉橋惣三により保育が確立された東京女子師範学校（現お茶の水女子大学）附属幼稚園や明治20年に開園した文京区立第一幼稚園、伝統ある大学や学校のある「文教の地」としても知られている。

近年、家庭や地域において、子どもが兄弟姉妹や近隣の子どもと関わる機会や、心と体を動かして夢中で遊びこむ機会が減少しているとの指摘がある。このことを踏まえると、保育園・幼稚園・認定こども園において、同年齢や異年齢の子ども同士が互いに関わり合い、生活することの意義は大きい。子どもは遊びを通して思考力や想像力を養い、遊びこむことによって達成感や満足感を味わい、疑問や葛藤を経験し、自発的に周りの環境に関わる意欲や態度が育っていくのである。

このカリキュラムは、東京都が平成25年に発行した就学前教育カリキュラムを基に、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、生きる力の基礎（生活する力・人との関わり・学びの芽生え）の育成に向け、その目標を適切かつ具体的に達成するための事項を経験させたい内容としてまとめた。

なお、リーフレットの内容は、各年齢の年度末のカリキュラムの抜粋である。

0歳児

<p>発達の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人立ちから歩き始めるようになる。 腕や指先を意図的に動かせるようになる。 探索活動が活発になり、行動範囲が広がる。 保育者や友達の行動に関心を示し、関わろうとする。 言葉と動作や物とが結びつき、簡単な指示が分かるようになる。 	
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人立ちができ、歩行がほぼ完成し、体を十分に動かして遊ぶ。 保育者や友達と一緒にいることを楽しむ。 様々な物に興味をもち、探索活動を活発に行う。 	
<p>経験させたい内容</p>		
<p>生活する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保育者に食べさせてもらったり、手づかみやスプーン、フォークを持って食べようとする。 徐々に離乳が完了し、幼児食に移行する。 おむつがぬれていたり汚れたりしている時はこまめに取りかえてもらい、気持ち良さを感じる。 自分の気持ちを受けとめてもらい、保育者のそばで安心して眠ろうとする。 衣服の着脱の時、自ら袖に手を入れようとしたり、足を出したりする。 援助されながら手を洗ったり顔を拭いたりして、きれいになった気持ち良さを感じる。 ほぼ歩行が完成し、はいはいやつかまり立ち、伝い歩き、歩行など全身を使って遊ぶ。 	
<p>生きる力の基礎</p> <p>人との関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保育者と物のやり取りをすることを喜ぶ。 保育者の仲立ちで、友達と触れ合って遊んだりする。 友達の行動に関心を示し、関わろうとする。 いろいろな経験を重ねる中で、自分の気持ちを表情や態度で表現しようとする。 	
<p>学びの芽生え</p>	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2;"> <ul style="list-style-type: none"> 物の名前が分かるようになる。 発語が盛んになり、語彙も増える中、言葉で自分の思いを保育者に伝えようとする。 知っている物を指差ししたり、名前を呼ばれて返事をする。 戸外に出ると様々な物に興味をもち、歩き回ることを喜ぶ。 虫や小動物を見つけると手を伸ばして触れようとし、興味を示す。 貼っている紙やシール、テープをはがして遊ぶことを楽しむ。 </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> 簡単な型はめやパズルボックスなどを楽しむ。 保育者に絵本を読んでもらうことを喜ぶ。 保育者と一緒に歌を歌ったり、手遊びやまねっこ遊びを楽しむ。 	

1 歳児

発達の特徴

- ・歩行が完成し、言葉を話すようになり、身近な人や物に自分から働きかけていく。
- ・歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な運動機能が発達する。
- ・大人の言うことが分かるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。
- ・指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。

ねらい

- ・保育者に手伝ってもらいながら、簡単な身の回りのことをしようとする。
- ・様々な遊びの中で、保育者や友達との関わりを楽しむ。
- ・身の回りの様々なことに興味や関心を示し、探索活動を十分に楽しむ。

経験させたい内容

生活する力



- ・スプーン、フォークを使って、自分で食べようとする。
- ・保育者や友達と一緒に同じ場所で、楽しく食べる。
- ・排尿したことをしぐさで伝えようとしたり、誘われてトイレに行こうとする。
- ・保育者に手伝ってもらいながら、簡単な衣服の着脱を自分でしようとする。
- ・保育者に言葉をかけられて、手洗いをしようとする。
- ・またぐ、くぐる、低い段から跳び降りるなど、全身を使った遊びを楽しむ。
- ・散歩や固定遊具での遊びなど、戸外で体を動かして遊ぶ。
- ・つまむ、めくるなど細かい指先を使った遊びを楽しむ。

生きる力の基礎

人との関わり

- ・好きな友達ができ、そばに近寄ったり一緒にいたりする。
- ・保育者の仲立ちで、友達と同じ遊びをしたり、一緒に遊んだりして関わりを楽しむ。
- ・友達や保育者の名前を呼び、親しみをもって関わろうとする。
- ・保育者に促されて、生活の中の簡単なルールや、危ないことやしてはいけないことに気付く。
- ・自分と友達の持ち物の区別ができるようになり、自分の物の置き場所などが分かる。



学びの芽生え

- ・身近な小動物や、木の葉や木の実など、周囲の自然物やその変化に関心をもつ。
- ・大人のすることを真似たり、自分の好きな役になったりすることを楽しむ。
- ・生活や遊びの中で、保育者と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。
- ・絵本や紙芝居を読んでもらい、繰り返しの言葉を真似して楽しむ。
- ・保育者や友達と一緒に歌を歌ったり、リズムに合わせて体を動かして遊ぶ。



2歳児

発達の特徴

- ・歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能や、指先の機能が発達する。
- ・食事、衣類の着脱など身の回りのことを自分でしようとする。
- ・排泄の自立のための身体的機能が整ってくる。
- ・発声が明瞭になり、語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。
- ・行動範囲が広がり、探索活動が盛んになる中、自我の育ちの表れとして、強く自己主張する姿が見られる。
- ・大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。

ねらい

- ・保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
- ・保育者や気の合う友達と関わることを喜び、ごっこ遊びを楽しむ。
- ・興味のあることや経験したことなどを、保育者と一緒に表現する。

経験させたい内容

生活する力

- ・様々な食べ物を進んで食べようとする。
- ・スプーンやフォークを持って、食器に手を添えこぼさずに食べようとする。
- ・尿意、便意を感じて自分からトイレに行き、排泄後の始末を自分でしようとする。
- ・自分で衣服を着脱し、たたむなどの始末をしようとする。
- ・手洗いやうがいなど、病気にかからないために必要な活動に気付き、自分からしようとする。
- ・散歩に出かけたり、戸外で体を十分に動かし、遊ぶことを楽しむ。



生きる力の基礎

人との関わり

- ・気の合う友達と見立て遊びや簡単なごっこ遊びを楽しむ。
- ・保育者や友達と、鬼ごっこや簡単なルールのあるゲームで遊ぶことを楽しむ。
- ・友達に話しかけたり、自分の知っていることを言葉で伝えたりして、関わることを喜ぶ。
- ・保育者や友達に自分のして欲しいことを言葉で伝える。
- ・玩具や遊具など順番に使ったり分け合ったりする。

学びの芽生え



- ・少しずつ身の回りの色や形の変化、大小、長短、数などに気付く。
- ・生活に必要な簡単な言葉が分かり、使おうとする。
- ・繰り返しの言葉や、様々なやり取りが出てくるお話の面白さを感じ、喜んで聞く。
- ・保育者と一緒に、のり、はさみ、絵の具、粘土などの材料や用具を使い、じっくりと楽しむ。
- ・保育者や友達と一緒に歌を歌ったり、リズムに合わせて体を動かして遊ぶ。

Q & A

「はいはい」はどうして大切なんですか？

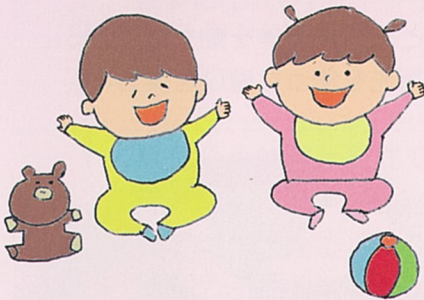
「はいはい」は体の隅々を使う全身運動であり、全身の筋肉やバランス感覚が鍛えられます。また、「はいはい」することで赤ちゃんの行動範囲はぐっと広がることになります。「はいはい」によって、触りたい、動きたいという要求を自ら叶えることができ、たくさんの刺激を受けられるようになります。これは、赤ちゃんの精神的な発達に非常に役立つとされています。たくさん「はいはい」ができるように環境を整えましょう。



Q & A

どういつにかみつikyひっかきが起こるのですか？

子どもは1歳半を過ぎた頃から明確な自我が出てくると言われています。しかし、言葉では十分に自分の思いを表現することができない時期でもあるため、自分の思いが通らないこともあります。そのような時、自己主張の手段として起こるのがかみつikyひっかきです。お子さんの気持ちを読み取り、代弁することを心がけましょう。



Q & A

探索活動ってどういうことですか？

子どもが安心、安全感を感じた生活の中で知らない物事に興味を示し、それがどのような物かを確認しようとする活動のことです。つかまり立ちや一人歩きを始める時期から周囲に対して強い好奇心を抱くようになります。一見するといたずらのようにも見えますが、成長に欠かせない大切な活動です。危険がないように安全な環境を整え、好奇心を育てていきましょう。

